

# 令和3年度 第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事概要

【日時】 令和3年10月28日（火） 18時00分から19時20分まで

【場所】 苫小牧市役所 9階議会大会議室

【参加者】 定住自立圏共生ビジョン懇談会委員（13名）

當摩 栄路、笠原 健太郎、塚原 光博、小坂 幸司、原 祐二、柴田 淳、内藤 圭子、  
荒舘 康治、西嶋 基、遠藤 了介、五十嵐 啓子、村田 貴子、村田 奈採  
（欠席：三上 裕紀子、千葉 勝宏、丹羽 智久、吉田 章）

苫小牧市

市長 岩倉 博文、総合政策部長 木村 淳、政策推進室長 山田 学  
政策推進課長 茶谷 英史、課長補佐 横部 悟、主査 榎田 崇之、  
主事 辻 寛太、主事 岡崎 一樹

厚真町

まちづくり推進課 課長 藤岡 隆志  
まちづくり推進課企画調整G 主任 矢代 直樹

安平町

政策推進課政策推進G 主査 笹山 陽平

むかわ町

総務企画課政策推進G 主事 岩舘 宏樹

白老町

企画財政課 主事 畠山 怜

## 議 事 内 容

- (1) 開会
- (2) 委員紹介・事務局紹介
- (3) 座長・副座長選任  
【笠原座長、遠藤副座長が選任】
- (4) 議事  
①東胆振定住自立圏共生ビジョンについて  
【事務局より説明】

②定住自立圏における新たな取組について意見交換

座長) 各分野の委員さんや公募の皆さんに来ていただいておりますので、1市4町で取り組めるもの、また取り組むと良いと思うものなど、既存の協定、ルールや実現の有無に縛られず、ご発言いただきたいと思います。

委員) ビジョンの中でK P Iを設定するのであれば、K P Iをもう少し高い設定にして、達成できなかった部分を深掘りしていくほうが、より効果的な取組になるのではないのでしょうか。もう一点、定住という観点で言うと、若年層に対してのアプローチが少し足りないと思います。Iターン、Uターンもしくは高齢社会への対応も大事ですが、例えば大学を誘致していくなどの施策があっても良いのかなと思います。

座長) 医療の部分につきましては、今後高齢化や人口減少が進むなかで、医療ニーズが増えることで、外来診療にて対応できない難しい時代になっていきます。医師が在宅医療に向かうということも大事ですが、交通網ですとか、そういったものの発達というのものも、これから項目の中に入れていただければと考えています。

委員) 研究の分野におきましては、盛んにA I、I o Tという言葉が、ほぼ毎日のように出てくるという時代になってきています。

高専では、工業系の研究分野に特に力を入れていますが、研究をしていく上でビッグデータを共有する際に、通常のパソコン上のネットワークでは通信ができないということが起きています。

例えば札幌市と苫小牧市を光ファイバーの通信ケーブルでつなぐなど、インフラの整備が必要になってくるのではないかと思います。

座長) 通信のインフラについては、在宅診療などの部分にも影響すると思いますので、ぜひ4町を含めインフラを整備していただければと思います。

委員) 白老町と苫小牧市は近いのですが、一緒にやっていることが少ないと感じています。民間もそうですが、行政はもう少し手を携えてもいいのではないかと思います。

委員) 生涯学習ということで図書館の利用などが進んでいますが、先ほども話に出ていた通信のインフラが整備されることによって、もっと様々な分野で共有ができるものだと考えております。

委員) バス、タクシー、J Rなど、公共交通に関して、あらゆる会の中で交通網に関し、議論するというのは、大変有意義なことであると思います。

委員) 地元の食材を使った給食メニューは子ども達がとても喜んで食べてくれると聞きますので、農産物など、メニューが交換されたり、子どもたちが豊かな食を体験できることはとてもいいことじゃないかと思います。

また、鳥獣被害の件についてKPIに反映されたので良かったなと思います。ありがとうございます。

委員) 先ほどからインフラという話もありました。防災というのも、やはり地域のインフラというのが非常に重要なポイントになっています。

北海道胆振東部地震では、ブラックアウトによって通信網は非常に厳しい状況が続きました。携帯電話がつながりにくかったのですが、固定電話は比較的つながっていたということもありますので、そういったもの見直しも必要なのかなと感じました。

委員) 8年ほど前に東胆振のブランド協議会が立ち上がった当初は、行政の方や民間の観光業者の方、生産者の方と意見交換をする場というのが月1回程度ありましたが、最近は会議が書面開催ばかりで、意見交換をする場がほとんど無い状況です。

コロナウイルスも収まってきているので、顔を合わせる機会をたくさん作ることで、地産地消や観光振興につながると思います。

委員) 圏域においてそれぞれの魅力ある地域資源、特産品、各種イベントがありますが、どうしてもそれぞれの発信になりがちです。まさにこの1市4町で連携した情報発信をすることでこの地域を知っていただいて、そこから移住交流が始まるのだらうと思いますので、まずは魅力ある地域資源・特産品のPRに努めて、今後は1市4町が密に連携した施策展開を願います。

委員) 私の団体は小規模ですが、地域の外国人や技能実習生、また就労者の支援をするなど、地域の皆さまに多文化共生という意識をもっていただきたいということで、啓発活動を行っています。今回初めて参加するので、意見というのは難しいですが、多文化共生や外国人支援というのは、この定住圏の中ではどこに該当するのかなと見ていて思いました。

委員) 私は生まれてから18年福岡で暮らして、その後大学時代4年間岡山にいて、北海道に移住してきて最終的に苫小牧に拠点を決めて住んでいます。そういう観点から、色々なまちを見てきた経験をもとに、今後意見を皆さんに発信できたらいいかなと思っております。

委員) 私はイラストレーターや風呂敷講師をしているなかで、安平町にアートの先生として訪れたり、厚真町に風呂敷講師として呼ばれたり、胆振と関わる機会が多いので、とても素敵な地域だと思っています。

子どもが保育園で、生産者の方と関わっていても掘りをしてそれを食べるなど、人と人のつながりがすごくあり、自然に触れることができ、素敵だと感じているので、何か生産者の方と子どもたちがつながるような機会が増えたら良いと思っています。

あと、防災に関してですが、私はもともとあまり海がない町で育ったので、すごく大きな津波が来たときに、どこに逃げたらいいのかと、ちょっと揺れると思っています。ハザードマップを見ても、どこまで水がくるのかなど、あまり身近に感じてないので、市民の方が防災に関して、どのような逃げ方をしたらよいかなど、身近に感じ、普段から知れたら良いなと思っています。

あと、町内会の班長をさせていただいて、少し地域の方と交流したいなと思っていますのですが、昔に比べると結びつきがないように思っています。でもやはり人と人との結びつきの中で、私のように他のところから来た者人その地域に根差して、安心して、「私はここの地域に住んでいるんだ、私の存在を他の人も感じてくれているんだ」という安心感も生まれるかなと思います。町内会や、地域がもう少しつながる機会が増えたら良いなと思っています。

座長) 今日ご出席の各委員から様々な意見いただきまして、通信に関するインフラなど、様々な意見がございました。その意見の中で、事務局で本日回答できるような内容がございましたら、お願いいたします。

事務局) まず最初に、共生ビジョンKPIについてですが、平成27年から平成31年までの結果を反映し、新たなKPIを設定して現行の2期目の共生ビジョンの取組を進めているところであります。

また、給食のお話がありました。確かに、1市4町は、それぞれ特色のある食材がありますので、教育担当にもそのような意見があったということは伝えていきたいと思っています。

事務局) 通信インフラのお話が何点か出ましたが、通信ケーブルをつなぐほかにも、新たに通信規格として、無線で飛ばすような技術もあるということも聞いておりますので、情報をキャッチしながら施策に反映させていきたいと思っています。

あと、東胆振ブランド協議会の打合せが少ないという意見がございましたが、これ以外にもいろいろな会議で、書面会議ばかりでなかなか人と顔を合わす機会がないということでご指摘受けている部分があります。

最近少しずつコロナが回復してきていますので、今後そのような会議というのは増えていくのかなと思いますし、具体的に東胆振ブランド協というお話がありましたので、そこからは私たち同じ総合政策部内で担当しておりますので、伝えてまいりたいと思っています。

事務局) 冒頭このビジョンに対して、若年層へのアプローチというのが弱いのではないかというご意見もありました。私どもとしても、若い人たちがこの生まれ育った苫小牧、近隣4町、そこに残って生活をしていただきたいという意味も、この定住自立圏構想には入っていますので、苫小牧としては企業誘致、企業への支援というところも含めながら取組は進めております。

また、十分生活圏でありますので、苫小牧の企業に就職していただきながら、住まいは4町に住む。そのような形での取組というものも移住定住の中で1市4町での取組も行っている部分もありますけども、いずれにしても魅力ある圏域をつくっていかなければ、子どもたちもこの圏域を選んでいただけないということでもありますので、1市4町それぞれしっかりと魅力あるまちづくりをしていかなければいけないと感じています。

農産物、地産地消としての活用というお話もありました。この取組の中で、ふるさと納税の返礼品として1市4町の特産品を返礼品として取り入れていたこともあります。ただ、この1市4町の圏域の中で、それぞれの住民が圏域の農産物、どういうものがあって、どういう形で食べられるのか、どういう魅力があるのかを、それぞれ知るということも当然必要ですし、そういうPRをしながら、圏域で地場の産品を食すという取組というのも非常に大切なことだと思っています。

苫小牧市は消費地ということになりますけども、4町の農産物をこの苫小牧市でたくさん消費してもらおうということでもいいですし、それぞれが魅力ある地場産品をPRしていく、そして売上げにつなげていくという地場での取組というのも必要だと思いますので、何かできることがあれば考えていきたいと思っております。

座長) 今事務局のほうから説明もありましたが、それを踏まえまして、各委員から改めて何かご質問ですとか、ご意見などございませんでしょうか。

委員) 先ほどもお話がありましたけども、外国人の定住化という件で、苫小牧高専も5年間平均で10名前後の留学生を受け入れています。ほとんどが東南アジア、マレーシア、シンガポール、あるいは最近ではモンゴルからの留学生が多いです。

モンゴルや、マレーシアなど、東南アジア系の留学生にとっては、せっかく日本という、特に苫小牧市は工業技術のまちに留学してきているのに、そのような実習体験や経験がなかなか少ないということで、昨年度から高専の留学生を対象に、自動車関連会社の製造ラインの実体験をしていただくということを実施しています。ほかにもトヨタ北海道や、苫東の工業団地にも物づくりの会社がたくさんあります。

また、工業系だけでなく、農業についても、厚真町の手スナップなど、様々な実体験もできる環境にあると思いますので、外国人の受入れと云っていいのか、定住化と云っていいのか、もっと様々な分野で受け入れてくれるような体制を市のほうからご支援をいただければ、非常にありがたいと思います。

事務局) 私ども総合政策部と、産業経済部でも、実習生や、外国人の方の労働力というのは期待している部分がありますので、そこと連携しながら、苫小牧市だけに限らず、当然この東胆振定住自立圏というお話ですから、1市4町も含めて、どのようなことができるかというのは、今いただいたご意見を踏まえて考えてまいりたいと思います。ご相談することもあるかと思いますけど、よろしく願いいたします。

委員) 外国の方たちが苫小牧市で住むときに、普段から地域住民の方と交流しておくことで、地域住民が、あの方たちがどこで働いているのかなどを知っていた方がいいと思います。そうしていれば、例えば災害が起きて、どこかの体育館なり避難所に来たときに、お互いが孤立せず、「あの人普段からあそこで買物している誰々さんね」となるような状態を目指したほうが、外国の方も「苫小牧市に住んでよかったな」となると思います。

よく話を聞くのは、介護の世界に入ってきている外国の方などは、すぐお年寄りに優しく、そのような気持ちで接してくれる方もすごく多いと聞くので、その壁がなければ協力し合えることがもっとあるのかなと感じています。

なにか外国の方と地域住民の方が交流したり、お互いが分かり合えるような機会があったら、より良いと思います。

事務局) ご意見ありがとうございます。確かに、心の部分というのは、なかなか慣れないという点があるのかもしれません。例えば、外国人以外にも、今、性の多様性ということで、LGBTという考え方もあります。そういったことに対する理解なども含めて、どのようにしていくかということは、とても大事な視点ですので、しっかり受け止めて頑張っていきたいと思います

委員) 今の外国人の方との交流について、意見ではないのですが、経験として、私は町内会で役員をしています。

町内会では、ここ2年、コロナで新年会でできていませんが、コロナの前は新年会に車屋のクレタさんを通じて、働いている外国人の方を5、6人お誘いし、沼ノ端の新年会を楽しんでもらっていました。

そこで、「日本の宴会はこういうものだ」というのを経験してもらい、新年会に来る町内会のメンバーと交流してもらおうという場を作っています。

そういう方とは、スーパーで会ったりしたら声をかけたり、「あっ」という感じになったりするので、少しずつですけど壁を無くすような取組は行っています。

座長) 他に何かご意見、ご質問等もございませんでしょうか。本日は皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

(5) その他

(6) 閉会